

常在戦場

4日(火)は、4限に火災を想定した避難訓練を行いました。どの学級も事前指導で煙の恐ろしさなどを学んだうえで、訓練にのぞみました。

訓練のあと『ミニ牛久保塾』と称して校長が「**常在戦場**」の言葉を引用して話をしました。

「常在戦場」の言葉は、山本五十六が座右の銘としたり、最近では国政選挙の時にも政治家の言葉の中に使われたりするように、「いつでも戦場にいる心構えでことをなせ」「平時に油断せず備えよ」「**いつ緊急事態が起きても対応できるようにしておけ**」というような意味で使われています。

この「常在戦場」は「**三州牛久保の壁書**」のはじめの4字として、**戦国時代の牛久保・牧野家の家訓**として大事にされ、それが越後(今の新潟)長岡藩でも定着し、山本有三の戯曲『米百俵』のクライマックスでも使われ、全国に広まったと思われる。

※三州牛久保の壁書を卒業生が模したもの↓



この戦国時代の言葉が牛久保小学校の中に何か所も掲げられています。この言葉をどのように子どもたちに伝えようかと悩んでいましたが、**こと命を守ることに**関しては使えるのではと思い、子どもたちに話しました。

いつも緊急放送に備えて放送のチャイムや警告音が鳴ったら、静かに聞き大事な情報を聞き逃さないこと。地震の場合は「最初の8秒」で身を守ること。アラームが鳴ったり、余震を感じたりしたらすぐ机の下にもぐるなど、大きな揺れが来る前に身を守ることを確認しました。



『牛久保塾』

11日(火)バスケットB1リーグ2023-24シーズン、信州ブレイブウォリアーズで活躍された豊川市出身の**山本楓己(ふうき)選手**が、『牛久保塾』の講師として牛久保小学校に来てくださいました。山本選手は、食物アレルギーがあるということで、高校進学時に10校ほどの希望校に断られたり、大学卒業後2年間の無所属の期間を過ごしたりするなどの経験を経て、昨年見事にB1リーグのチームでプロのバスケットボール選手になりました。

『牛久保塾』の中では、華麗なボールさばきやシュートを見せてくれたあと、低学年の子たちとは、「山本選手がドリブルしているボールをとれるかチャレンジ」、高学年の子たちは子ども5人と山本選手+先生の5対2で対決しました。子どもたちは大喜びで応援も盛り上がりました。



高学年には「**夢をもつことの大切さ**」と題して、お話もしてくださいました。「夢=わくわくする自分の姿」を考えたとき、「でも・・・」という「弱さ」が顔を出す。その「弱さ」を「個性・自分らしさ」というとらえにかえることでやる気がでて夢に近づけるというお話でした。山本選手自身、食物アレルギー・身長(177cm)・2年間無所属という「弱さ」をご自分の個性ととらえて夢を実現されたということで、子どもたちはうなずきながらお話を聞いていました。心に残る『牛久保塾』になりました。

